

漢字一字から言葉を広げる 漢字一字から作るネットワーク



埼玉県越谷市立千間台小学校教諭

塚原 公恵

『熟語の成り立ち』（光村図書六年下）を学習したときのことです。
平成十六年一月二十九日（六年三組男子22名女子13名計35名）



1 子どものノートから

漢字二字から成る熟語を調べていたときです。「一字十二字」から成る熟語のうち、「未」の付く熟語をノートに書きました。「未」を軸にしてその回りに、「完成」「解決」「発達」「発表」などを四方から書きました。そして、「未」の付く熟語の意味を考えたり、さらに熟語集めをしたりしました。漢字一字から、漢字が広がる楽しい学習になりました。

2 漢字一字から広げる

まず、B4版の用紙の真ん中に自分の好きな漢字を書かせました。例えば、バスケットボールの好きな千葉雄介さんは、「球」を。次に、その漢字を使った熟語を考え「籠」「野」「地」「速」「技」と書いていきました。漢字と漢字の間には線を引きながら、漢字をつなげていきます。次に、上下左右の

漢字を使って、熟語を増やしていき

ました。千葉さん

は、「地下通路」

「速攻」「技術」

「鳥籠」と書き続

けました。用紙に

書かれた漢字から

考えついた漢字を

どんどんつなげ

て、熟語を作っ

ていきました。結局

千葉さんは、一時

間の学習の中で、約120字の漢字を書き、70組以上の熟語を作りました。



〈千葉雄介さんの作品〉

子どもたちが真ん中に書いた漢字は、「学」「花」「国」「年」「軍」「天」「画」「人」「体」など自分の好きな漢字です。

みんな夢中になり、用紙が足りなくなった子も出てきました。濱野翔太さんは、自分の好きなプロ野球チーム「巨」人から書き始めました。どんどん書き足していくうちに用紙が足りなくなり、下のほうに糊で貼って増やしていきました。そして、「在籍」「移籍」と書き足していきました。また、漢字を書くのが得意な山下聡史さんは、黙々と書いていたので、近くの子が用紙を覗き込むと、網の目のように書いてあったので驚いていました。覗いた子が、「山下さんのように、上下左右どのように漢字をつなげてもいいの？」と聞くので、再度、許可しました。さらに、漢字と漢字の間の線を長く引くと書きやすくなることも指導しました。

3 途中で止まってしまっ

子どもたちは、熟語をどんどん書いていきました。途中で付け足す熟語がわからなくなったりすると、今度は国語辞典や漢字辞典で調べながら進めました。星川さんは、国語辞典を持ってきましたが、「漢字辞典のほうが調

4 枝分かれして増えていく漢字

だんだん慣れてくると、二字の熟語が、「二字十一字」の熟語となり、そして四字・五字…と長くなります。そうすることにより、また書き加える熟語が増えてきました。例えば、「地球温暖化」と書いた瀬口莉子さんは、次に、「地上」「投球」「温室」と増やしていきました。一時間、ほとんどの子が百字以上の漢字が書け、熟語も五十組以上できあがりました。

また、友達と交換して、網目で作られた漢字のネットワークを見て、線をたどりながら熟語を楽しそうに作りしました。漢字一字で言葉の情報がたくさん広がることを体験した学習でした。